

株主メモ

事業年度	毎年7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	毎年9月に開催
配当金受領株主確定日	毎年6月30日 中間配当金を支払うときは毎年12月31日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711（通話料無料）
上場証券取引所	大阪証券取引所 ジャスダック市場
公告掲載新聞	日本経済新聞

（ご注意）

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



ATOM

第59期中間報告書

平成24年7月1日～平成24年12月31日

IR NEWS

経営理念

「住まいの飾り職人」がつくり出す
独創的な商品で、
社会の発展に貢献します

社訓

「独り歩きのできる商品づくり」

社是

「創意・誠実・進取」

社名の由来

創業者は江戸指物（鏡台、茶箆筒、長火鉢等）の金具職人、即ち繊細な装飾と微妙な細工の技術を要する鋳職でした。

社訓は、創業者の遺した言葉に基づくものであります。

「独り歩きのできる商品」とは、販売に際して、巧言令色や誇大な表現を添えずとも「ひと目でその価値が相手に伝わる商品」を指します。

当社の社是は、ご覧の通りですが、企画開発を旨とする企業として「創意・進取」は元より、独り歩きのできる商品であればこそ、販売に際して「誠実」が貫き得ると考えております。

また社名の冒頭に冠した「アトム」は設立以来の商標であり、内装金物の分野で、業歴相応の認知と浸透を得ております。

以下に続く「リビングテック」には、ご説明の要も無い「リビングテック」の他に、まさしく「技術に生きる＝リブ・イン・テック」の意味が籠められており、併もその技術とは、当社がファブレスメーカーであるだけに、単なるハードウェアのみならず、ソフトウェアをも包含する「ノウハウのメーカー」であり続けたいという思いを表しております。



株主の皆様へ

第59期第2四半期累計期間の業績について、 ご報告申し上げます。



代表取締役社長 高橋良一

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当社第59期中間報告書をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

当第2四半期累計期間におきまして、当社が関連する住宅市場は、被災地における復興住宅の着工増加や各種住宅取得支援制度の効果を背景に、新設住宅着工戸数に緩やかな回復の動きが見られました。しかしながら、雇用・所得環境には未だ厳しさが残るなど、本格的な市場の回復には至らない水準で推移いたしました。

こうした状況のもと、当社は第59期を初年度とする「第8次中期経営計画」（第59～61期）において、「次世代に向けた企画開発力の向上」を基本方針に掲げ、住宅関連産業における企画開発型企業として、震災復興に寄与する事業展開と総合力の強化に最大の努力を傾注するとともに、販売費及び一般管理費の圧縮など、調整かつ管理可能な諸施策を講じてまいりました。こうした自助努力に努める一方、昨年10月には東京（アトムCSタワー）及び大阪（アトム住まいの金物ギャラリー）の2拠点で「秋の内覧会」を開催するなど、積極的な商品展開と販路拡大に取り組んでまいりました。

こうした取り組みの結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高42億29百万円（前年同期比16.1%増）、営業利益2億85百万円（前年同期比102.5%増）、経常利益3億4百万円（前年同期比73.9%増）、四半期純利益1億80百万円（前年同期比10.4%減）となりました。

当社では、経営環境の好転とソフトクローズ関連商品のヒットを追い風に、より一層、企画開発力の拡充に取り組み、組織の活性化を図りつつ柔軟かつ機動的な経営体制の構築を目指してまいります。

平成25年3月

企画開発型企业として市場ニーズに応えるものづくりを 推進し、積極的な営業活動を展開した結果、 第59期第2四半期累計期間の業績は期初予想を上回りました。

第59期第2四半期累計期間の業績について

ソフトクローズ関連商品のヒットを 背景に取り組んだ、積極的な営業展開が 収益の向上に寄与しました。

冒頭のごあいさつでご報告申し上げましたが、第59期第2四半期累計期間の業績は、住宅市場の緩やかな回復傾向を確実に収益へと結びつけ、期初の予想を上回る形で推移いたしました。その結果、2013年1月30日付で通期の業績予想について上方修正を行いました。

こうした業績を確保することができた要因は、ソフトクローズ関連商品のヒットに見られるように、企画開発型企业として市場ニーズに応えるものづくりを推進し、積極的な営業活動を展開してきた結果であると考えています。とりわけ、本格的回復には至らない住宅市場の中であって、かねてより当社が特販事業部、卸売事業部、拠点統括部を核として推進してきた、全方位のお客様に対する営業努力が功を奏し、マーケットチャンスを損なうことなく、収益の向上を果たすことができたと評価しています。

当第2四半期累計期間の取り組みですが、商品戦略面ではお客様のニーズに応えるべく、機能性や利便性を高める方向で開発を進め、ソフトクローズのトップメーカーとして商品群の拡充と市場への浸透に弾みをつけることができました。

市場戦略面においては、従来の「秋の内覧会」を軸とし

た販売促進活動に加え、当社主催及び各種団体、企業との共催によるセミナーやイベントを恒常的に催行してまいりました。また、当社の販促ツールとしてお客様から親しまれている総合カタログ「アトムデータライン2013-15」を発刊いたしました。

情報システム戦略面では、日常業務の作業効率向上を目指してシステム上の変更を行ったほか、お客様の更なる利便性を追求するため、「オンラインショップ」を「ATOMダイレクトショップ」として全面リニューアルするなど、ホームページの大幅なリニューアルに取り組み、コンテンツの拡充とシステムの改善を進めてまいりました。

こうした戦略面での取り組みを強化する一方、組織面では第7次中期経営計画で進めてきた、組織の再編成と世代交代による新体制で第59期を迎えることになりました。期初より、世代交代を行った部門全体の活性化が図られ、能動的かつ積極的な営業活動が行われ、幸先よく第8次中期経営計画のスタートを切ることができました。

第8次中期経営計画の戦略課題について

企画開発型企业として付加価値の創出に 取り組み、経営環境に左右されにくい 事業基盤の確立を目指します。

「企画開発力の更なる強化による市場優位性の維持と収益力の向上」を目標に掲げる第8次中期経営計画では、企画開

発力に磨きをかけ、経営環境の変動に左右されにくい、時代と市場の変化に即応できる事業基盤の確立を目指しています。

当社は工場を持たないファブレス企業ですが、取扱商品の約8割が当社オリジナル商品というように、メーカー頼みで完成した商品をそのまま販売するわけではありません。当社独自のマーケットリサーチに基づいて商品を考案・設計・デザインした試作品を、自社の試験研究設備で繰り返しテストを行った後、初めて商品化するという企画開発型ファブレス企業です。このため、お客様が求める試験要件について、ほとんど対応できるよう試験研究設備の拡充に努めてまいりました。また、金型投資についても、これまで売上高の1%を目処に投資を行ってまいりましたが、第59期では上積みして実施するなど、常に付加価値の高い商品づくりができる体制の整備に取り組んでまいりました。

第8次中期経営計画では、当社の生命線ともいべき企画開発力の増強を図るため、これまでのものづくりのサイクルを見直し、市場優位性の維持・確保をする付加価値の創出を目指しております。このため、基礎技術機能と商品開発設計機能とを区分けし、「繊細なものづくりの精神」を反映した新たな商品開発に積極的に取り組み、効率的な収益基盤の構築を図ってまいります。

また、第8次中期経営計画では、業務効率及び管理機能向上のため、将来を見据えて必要と思われる投資をこれまで以上に積極的に行ってまいります。当第2四半期累計期間においては、使い勝手の改善を目指した住まいの金物ギャラリー大阪事業所の改装補修工事を終えたほか、当社の物流拠点であるアトムC/Dセンターへの設備投資に向けた計画立案作業に着手いたしました。アトムC/Dセンターでは、作業効率の改善はもとより、お客様のご要望にお応えする発送・梱包を実現し得る出荷体制の構築を図るべく、鋭意、検討を進めております。

株主の皆様へのメッセージ

より一層、業績の向上に取り組み、 株主価値の向上に努めてまいります。

当社は第59期において、新たな時代の流れと新しいものづくりにチャレンジするため、ライフスタイルに関わるさまざまな提案を行いながら、商品開発と販路の拡大に取り組むアーバンスタイル事業部を立ち上げました。これまで当社の事業や商品の情報発信基地として活用してきた「アトムCSタワー」を拠点とするアーバンスタイル事業部は、従来のものづくりだけではなく、都市計画やライフスタイルへの提案といった、これまで当社が直接関わったことのない分野に本格的に参入するなど、業容の拡大に向けて大きな一歩を踏み出しました。こうした住宅関連に関わるテーマを深掘りしつつ、既存事業と新規事業のシナジー創出によって、「住空間創造企業」として経営環境の変動に左右されにくい事業基盤の確立を目指してまいります。

最後になりましたが、配当金につきましてご報告させていただきます。安定的な経営基盤の確保と株主資本利益率の向上に努める当社では、株主の皆様への利益還元を最重要課題に位置づけ、積極的な配当の実施を掲げて、年間配当金については「利益水準のいかに関わらず、最低でも1株当たり20円」を維持してまいりました。第59期につきましては、当第2四半期累計期間の業績を踏まえ、中間配当金は10円とさせていただき、期末配当金は普通配当金の10円に5円増額した15円を予定させていただいております。また、創業110周年、法人改組60周年を迎える来期におきましては記念配当を実施させていただくべく、より一層、業績の向上に取り組み、株主価値の向上に努めてまいります。株主の皆様におかれましては、今後とも引き続き、当社の経営方針ならびに経営施策に対するご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

更に充実した ソフトクローズシリーズをはじめ、 当社の意欲作をご覧ください、 「2012 秋の内覧会」を 開催いたしました。

2012年10月、当社恒例となりました「秋の内覧会」を大阪と東京で開催いたしました。大阪では10月10～12日まで、新装なった「アトム住まいの金物ギャラリー大阪」で、東京では10月17～19日まで「アトムCSタワー」で開催されました。

今回の「秋の内覧会」では、重量用ソフトクローズの発売で幅広い建具重量への対応が可能になるなど、更に充実したソフトクローズシリーズを展示いたしました。このほか、操作性と視認性を向上させたユニバーサルデザインのチューブラ鎌錠や、薄型テレビ転倒防止金具「感心ぼう」なども展示し、当社の意欲作をご覧くださいことができました。

また、東京会場では、屋上ガーデンやお茶席、オーディオ、ヘルシーフードなど、アーバンライフスタイルのさま



薄型テレビ転倒防止金具
感心ぼう

上吊式引戸用
シンクロ連動ユニット

①チューブラ鎌錠
②ウッドモアハンドル

ざまなシーンをご覧ください、積極的に新しい取り組みを推進する当社の「今」を体感していただきました。

なお、当社では、「秋の内覧会」でお客様から頂戴した新製品に対する貴重なご意見やご要望を取り入れた商品を、「2013 春の新作発表会」でご披露させていただくべく、準備を進めております。

東京
会場



大阪
会場



生まれ変わった 「アトム住まいの金物ギャラリー大阪」

住 所 大阪府吹田市広芝町18番地5 電話06-6821-7281

アクセス 大阪市営地下鉄御堂筋線・南北線「江坂駅」
南改札より徒歩5分

当社では、使い勝手と業務効率の向上を目指した「アトム住まいの金物ギャラリー大阪」の改裝補修工事を終え、「秋の内覧会」で生まれ変わった姿をお披露いたしました。外装が煉瓦色に施されたほか、内部の補修も行われ、関西の拠点としてお客様にご活用いただくことを願っております。お近くにおいでの際は、ぜひお立ち寄りください。

トピックス

総合カタログ「アトムデータライン」をはじめ、ホームページの大幅リニューアルなど、積極的な販売促進活動を展開いたしました。

1 | 総合カタログ 「アトムデータライン2013-15」を発刊

当社では、自社のみならず、お客様の営業ツールとしてお使いいただくことを目的とした総合カタログを3年に1回、発刊しておりますが、このほど、およそ800ページにもおよぶ最新版となる「アトムデータライン2013-15」を発刊いたしました。なお、総合カタログは当社ホームページでもご覧いただけます。これを機に、これまで以上に当社商品の認知度向上と販路の拡大に努めてまいります。



2 | ホームページを大幅リニューアル

当社では、これまでオンライン上での情報提供に努めてまいりましたが、このほど、全面的な見直しを進め、見やすくなりやすい情報提供を目指し、ホームページを大幅リニューアルいたしました。

その一環として、従来の「オンラインショップ」を総合カタログと連動し、多様な決済手段をご用意した「ATOMダイレクトショップ」として全面リニューアルいたしました。

また、日用品や生活雑貨、インテリアなど、身近なアイテムで皆様の暮らしを応援する「暮らし応援 e shop」(<http://eshop.atomlt.com/>)、職人の手仕事をめくもりとともにお届けするアトムCSタワー1階「ギャラリーショップ KANAGU」のオンラインショップ (<http://kanagu-store.com/>) を開設するなど、お客様のライフスタイルにあった商品を提案するオンラインショップの拡充に努めております。



ATOM ダイレクトショップ
<http://direct.atomlt.com/>



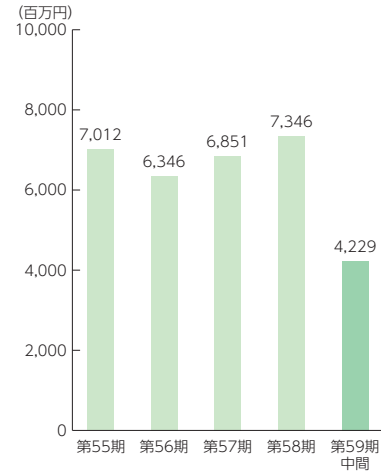
暮らし応援 e shop
<http://eshop.atomlt.com/>



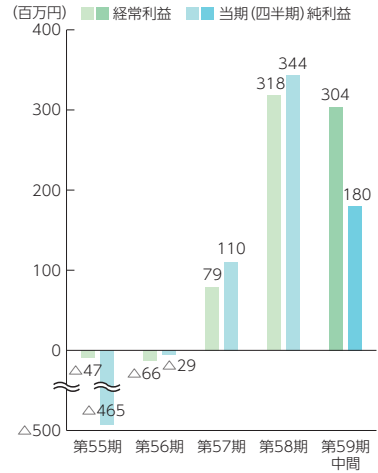
ギャラリーショップ KANAGU
<http://kanagu-store.com/>

業績の推移

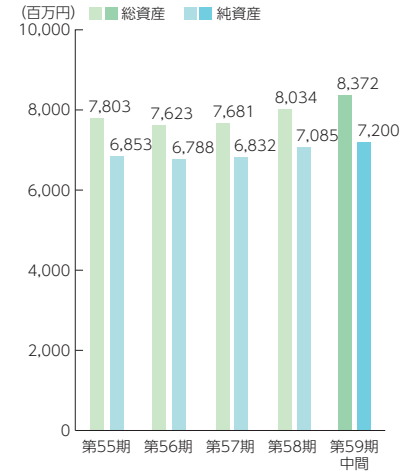
売上高



経常利益／当期(四半期)純利益



総資産／純資産



主要経営指標

	第55期	第56期	第57期	第58期	第59期中間
売上高営業利益率(%)	△1.6	△2.0	0.6	3.5	6.8
総資本営業利益率[ROA](%)	△1.3	△1.6	0.5	3.3	3.5
自己資本利益率[ROE](%)	△6.5	△0.4	1.6	5.0	2.5
流動比率(%)	714.8	938.2	815.6	751.6	603.3
固定比率(%)	51.7	48.3	54.5	52.3	47.3
自己資本比率(%)	87.8	89.1	88.9	88.2	86.0
1株当たり純資産額(円)	1,717.6	1,701.5	1,712.3	1,776.0	1,804.8
1株当たり当期(四半期)純利益又は純損失(△)(円)	△115.5	△7.4	27.7	86.3	45.1
1株当たり(中間)配当額(円)	20.00	20.00	20.00	20.00	10.00
配当性向(%)	－	－	72.3	23.2	22.2

※第55期・第56期の配当性向について
当期純損失であるため算定しておりません。

四半期財務諸表

単位：千円（千円未満切り捨て）			
科 目	前第2四半期累計期間 （自 平成23年 7 月 1 日 至 平成23年12月31日）	当第2四半期累計期間 （自 平成24年 7 月 1 日 至 平成24年12月31日）	前 期 （自 平成23年 7 月 1 日 至 平成24年 6 月30日）
売上高	3,644,523	4,229,529	7,346,309
売上原価	2,640,113	3,022,029	5,306,173
売上総利益	1,004,410	1,207,499	2,040,135
販売費及び一般管理費	863,315	921,818	1,783,595
営業利益	141,094	285,680	256,540
営業外収益	34,068	18,843	62,132
営業外費用	－	－	283
経常利益	175,162	304,523	318,390
特別利益	－	－	－
特別損失	483	547	753
税引前四半期（当期）純利益	174,679	303,976	317,637
法人税、住民税及び事業税	1,234	109,038	23,460
法人税等調整額	△27,628	14,871	△50,310
四半期（当期）純利益	201,073	180,066	344,486

四半期
損益計算書

Point 営業利益

売上高および売上総利益率の
増高に伴い売上総利益が増加
したことに加え、販売費及び
一般管理費の圧縮に努めた結
果、前年同期比144百万円の
増益となりました。

四半期
貸借対照表

Point 現金及び預金

前期末に比べ40百万円の減少となりました。
主な理由はキャッシュ・フロー計算書のコメントをご参照ください。

Point 有価証券
投資有価証券

償還期限が1年以内となった社債298百万円を固定資産の投資有価証券から流動資産の有価証券に振り替えました。

単位：千円（千円未満切り捨て）

科 目	期 別	前 期 (平成24年6月30日現在)	当第2四半期 (平成24年12月31日現在)
(資産の部)			
流動資産			
現金及び預金		1,877,674	1,837,311
受取手形及び売掛金		1,855,191	2,197,845
有価証券		99,891	355,188
商品		436,576	493,982
貯蔵品		－	16,643
その他		60,399	67,640
貸倒引当金		△2,788	△2,641
流動資産合計		4,326,944	4,965,970
固定資産			
有形固定資産			
建物（純額）		1,053,776	1,042,677
工具、器具及び備品（純額）		88,839	107,986
土地		1,027,767	1,027,767
その他（純額）		2,007	1,627
有形固定資産合計		2,172,390	2,180,059
無形固定資産		13,255	10,479
投資その他の資産			
投資有価証券		1,345,518	1,053,490
その他		176,415	162,683
貸倒引当金		△12	△6
投資その他の資産合計		1,521,920	1,216,167
固定資産合計		3,707,566	3,406,706
資産合計		8,034,511	8,372,676

単位：千円（千円未満切り捨て）

科 目	期 別	前 期 (平成24年6月30日現在)	当第2四半期 (平成24年12月31日現在)
(負債の部)			
流動負債			
買掛金		406,608	559,437
未払法人税等		24,811	111,783
引当金		10,000	－
その他		134,265	151,869
流動負債合計		575,685	823,090
固定負債			
退職給付引当金		194,792	174,598
役員退職慰労引当金		177,612	173,470
その他		600	600
固定負債合計		373,004	348,668
負債合計		948,690	1,171,759
(純資産の部)			
株主資本			
資本金		300,745	300,745
資本剰余金		273,245	273,245
利益剰余金		6,573,431	6,713,599
自己株式		△64,475	△64,475
株主資本合計		7,082,946	7,223,113
評価・換算差額等			
その他有価証券評価差額金		2,874	△22,197
評価・換算差額等合計		2,874	△22,197
純資産合計		7,085,820	7,200,916
負債純資産合計		8,034,511	8,372,676

四半期財務諸表

四半期
キャッシュ・フロー
計算書

単位：千円（千円未満切り捨て）

期 別	前第2四半期累計期間 （自平成23年7月1日 至平成23年12月31日）	当第2四半期累計期間 （自平成24年7月1日 至平成24年12月31日）	前 期 （自平成23年7月1日 至平成24年6月30日）
科 目			
営業活動によるキャッシュ・フロー	79,175	72,240	420,042
投資活動によるキャッシュ・フロー	162,864	△72,589	△67,574
財務活動によるキャッシュ・フロー	△39,952	△40,014	△79,957
現金及び現金同等物の増加（△減少）額	202,086	△40,362	272,509
現金及び現金同等物の期首残高	1,605,164	1,877,674	1,605,164
現金及び現金同等物の四半期末（期末）残高	1,807,251	1,837,311	1,877,674

Point 営業活動によるキャッシュ・フロー

主な資金増加要因は、税引前四半期純利益303百万円、仕入債務の増加額152百万円等によるものです。また主な資金減少要因は、売上債権の増加額342百万円等によるものです。

Point 投資活動によるキャッシュ・フロー

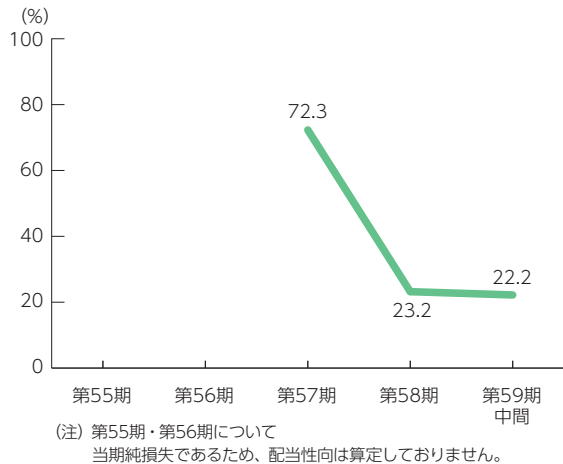
商品開発の金型など有形固定資産の取得による支出77百万円等によるものです。

Point 財務活動によるキャッシュ・フロー

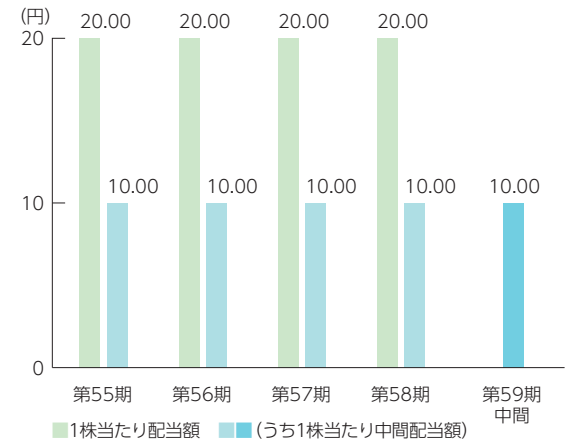
配当金の支払額40百万円によるものです。

配当状況

● 配当性向



● 1株当たり配当額



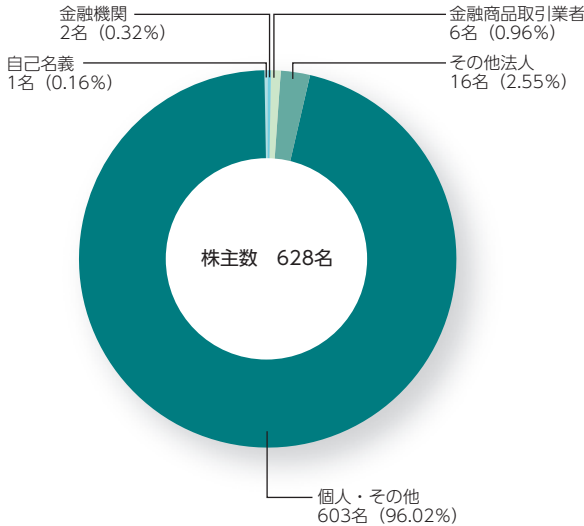
株式の概要

● 株式状況（平成24年12月31日現在）

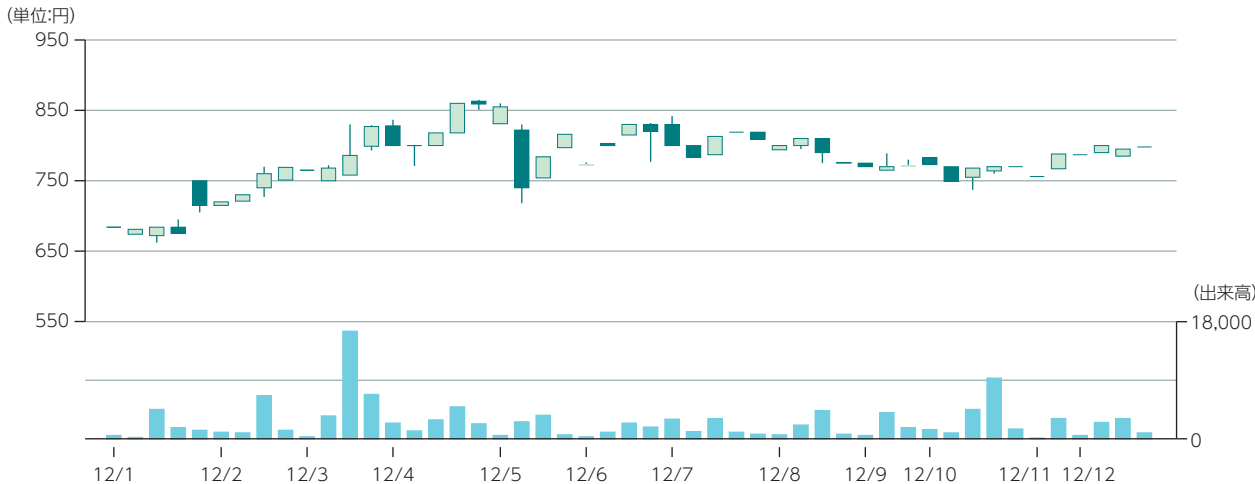
発行可能株式総数 15,420,000株
発行済株式の総数 4,105,000株
株主数 628名
大株主（上位10名）

株 主 名	当社への出資状況	
	持株数(株)	持株比率(%)
高 橋 不 動 産 株 式 会 社	985,440	24.00
高 橋 良 一	600,000	14.61
アトムリビントック従業員持株会	311,960	7.59
アトムリビントック取引先持株会	296,500	7.22
高 橋 快 一 郎	190,000	4.62
高 橋 寿 子	157,000	3.82
大 塚 李 代	137,000	3.33
アトムリビントック株式会社	115,117	2.80
佐 藤 俊 夫	92,600	2.25
磯 川 産 業 株 式 会 社	81,500	1.98

● 株主の所有者別分布状況（平成24年12月31日現在）



株価および出来高の推移



会社概要 (平成24年12月31日現在)

商号	アトムリビンテック株式会社
創業	明治36年
設立	昭和29年10月
事業内容	家具用金物・建具用金物・陳列用金物等、 住まいの金物全般の企画・開発・販売
主要取引銀行	株式会社みずほ銀行 株式会社三菱東京UFJ銀行 株式会社三井住友銀行
従業員数	111名（嘱託4名・パート19名含まず）

役員 (平成24年12月31日現在)

代表取締役社長	高橋 良一
取締役	後藤 厚
取締役	根本 博
取締役	森内 弘
取締役	上田 嗣夫
常勤監査役	馬場 敏雄
監査役	輿水 洋一
監査役	大野 和彦

事業所一覧 (平成24年12月31日現在)

本社	〒110-8680 東京都台東区入谷1丁目27番4号	TEL 03-3876-0600
アトムC/Dセンター（商品本部）	〒340-0022 埼玉県草加市瀬崎4丁目15番19号	TEL 048-922-5551
札幌営業所	〒060-0907 北海道札幌市東区北七条東3丁目28番32号 井門札幌東ビル1F	TEL 011-748-3113
前橋営業所	〒371-0805 群馬県前橋市南町3丁目72番7号	TEL 027-223-2651
広島営業所	〒733-0031 広島県広島市西区観音町16番地9	TEL 082-291-4235
アトムCSタワー	〒105-0004 東京都港区新橋4丁目31番5号 アーバンスタイル事業部 ショップ&ショールーム亜吐夢金物館	TEL 03-3437-3673 TEL 03-3437-3440
アトム住まいの金物ギャラリー大阪事業所	〒564-0052 大阪府吹田市広芝町18番地5	TEL 06-6821-7281

関連会社 (平成24年12月31日現在)

上海阿董木建材商貿有限公司（中華人民共和國）

ホームページも是非ご覧ください。

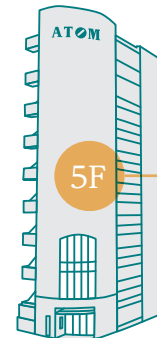
<http://www.atomlt.com/>

企業・財務情報をはじめ商品情報・オンラインショップなど、様々なコンテンツをご用意しております。ぜひご覧ください。



シリーズ
企画

アトムCSタワー最前線 SPECIAL ISSUE



アトムCSタワー5階に開設した「アーバンスタイル研究所」を核に、アーバンスタイル事業部が本格的に稼働を開始いたしました。

これまで当社は、高い技術力と能力を兼ね備えた異色クリエイターらによるコラボレーション空間「5f+」をはじめ、異分野・新分野との協働による各種セミナーやイベントなどを開催し、生活の質を高める生活空間の創造にアプローチしてまいりました。こうした取り組みを更に発展させるべく、2012年7月1日、「生きることをスタイリングする」をテーマに、新規事業の創出を目指すアーバンスタイル事業部を新設いたしました。

現在、アーバンスタイル事業部では、都市生活の「衣・食・

住・遊・学」から生き方を学ぶための新しい提案型プロジェクト「アーバンスタイル研究所」を核に、精度の高い現場の情報収集、ライフスタイルの変化に応じた企画開発など、次世代に向けた生活空間の創造に取り組んでいます。活動を開始して半年ほどが経過いたしました。これまでお付き合いのなかったお客様から協業に向けたご提案やお問い合わせを頂戴するなど、順調な滑り出しを見せております。今後も当社は、「住空間創造企業」として、都市生活でのワクワクの創造に取り組んでまいります。

人×都市×感性



ワクワクの創造